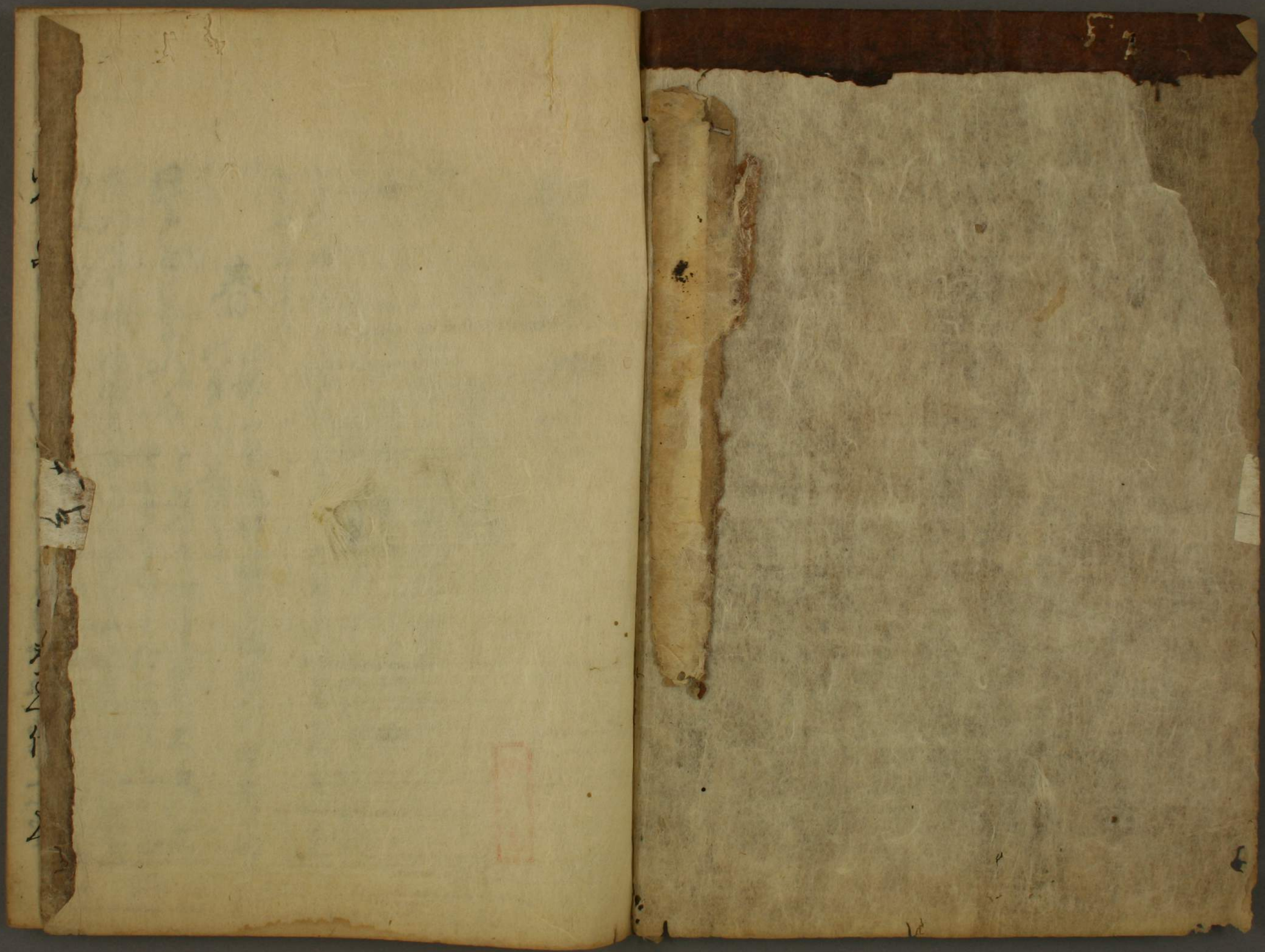
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

特別
~5
6188
3



[seal]

雅言抄巻下

三 四季詞

四季とハ花郭公月雪等乃おもむきをいふ
これらの物ハ不入俳家の要なれバ一つ/\面白く
くとりなしハ聞く事をとくとしるかいまハ
よそ乃詞乃よしあしを前に注く見るやうに
きこえたり

春

此部ハ皇居神祇を論ぜし時節の
詞をあつめり聞く

四方拝 とは四方をおがむや天子は天地四方を拝し給ふなり元正
寅乃时や清涼殿東庭にて乃るなきや故
おもしろく

屠蘇白散 おほやけ日より天子へ供しまつて
此ず思ふく

横山重

特へ5 6188 3

58 2157

[illegible]一家餓死一里
[illegible]病[illegible]

[illegible]子 業を供して[illegible]ヶ女[illegible]
不塚と用とする
元日[illegible]れ公家[illegible]年函

水揉 元日[illegible]
元日[illegible]

腹赤贄 [illegible]て元服[illegible]
九州肥後國宇土郡長濱[illegible]
奥[illegible]景行天皇乃[illegible]
[illegible]八重武天皇乃御宇[illegible]

[illegible]水 業[illegible]
正月[illegible]

白馬節会 [illegible]
[illegible]

[illegible]蒙 [illegible]
[illegible]

[illegible]蒙摘 [illegible]
[illegible]

[illegible]蒙 [illegible]
[illegible]

子日 [illegible]小松[illegible]

卯杖 [illegible]三寸[illegible]正月卯日[illegible]
[illegible]持統天皇[illegible]

賜石 正月十一日外官陰陽[illegible]外戚[illegible]
[illegible]國乃[illegible]

[illegible] 正月十[illegible]六日小[illegible]
[illegible]天武天皇[illegible]

くさの乃綿　牧衣端午乃時のまつり

御靴　正月十五日百官悪鞋と云てぬつる
ものあり

賭弓　正月十八日射礼乃行事なくよあり
くりあるといふすあり

松乃花　初春乃ゆるり

松の緑　同日ことり長や寺く松花
みとりハ新なり

椒　花をひとしてい長く椒ハ新なり

柳　ゆ雪ひとしてと長や

氷乃ひま　とくなりゆるくいふと長や
ゆく氷とまわて牧長といふり

雪月花の雪　ゆりたちあわとも道
なるすといふり不審
たつくハ冬ちりとも

水ぬるむ　ほりぬるむ

あやめつる　とくれ乃ちれとしけ行ハ長や

菖蒲代　水過よあるし

霞乃洞　院乃四番乃
ゆるり

初年祭　二月四番

春乃実　長ゆ実なりか
とゆハ行長や

春日祭　二月上申日や
十一月小て四つ

仲保姫　外祇りあ
らし

雨乃夜乃祭ハ初とはかとまるゆつよ長なり

大原野祭 二月上卯日有り

佛乃日乃秋

日有り天暦の年曲水宴 乃うまきみなと日

有り

如鶯 如うぐひす

うぐひす

乃うぐひす

百千鳥 ちちの乃うぐひす百千鳥乃

千鳥 百鳥

白尾乃鶯 白尾乃鶯乃ふるとしらさはりてはくる

鳴鳥 うぐひす

きてきへ鳥

うぐひす鳴乃鳥の新音鳴 なくこえ乃鳥

乃鳴 なくこえ

鳴鳥 なくこえ

鳴乃鳥 なくこえ

鳴乃鳥 なくこえ

白鳥 しらとり

雁 かり

鶴 つる

鶴 つる

雁 かり

若和布

夏草 乃類

草 乃

草乃夏草 乃夏草

草乃夏草 乃夏草

鶯乃夏草 乃夏草

まくろのすゝき　蘆乃角ぐむ
ひこばへ　句編春也まへにわかきひこばえの類並て春なく
春とさふわかなく別りしまきを
経なりをよまれ
萩乃焼原　草焼野を焼畑焼く
右の類いつれも春なり
またら川　山田乃くろ　これ春なり
窓乃色紙　右を云類
日乃あたり　右乃八春也春てあれてかけりハ
春まあしと云説あれともあ
ハ春なり四季に風の字四季にわたる
東風　といふまありあしてあふく風には
春なり

みな雛なり此外悪説耳よりまくらのゆめ雛依有也
江戸乃御禊　上巳乃日や日巳乃日のさし一ゝ
いかのぼり　いとあそびなり
けふの御ゆみ　雁乃わかれ　おもひ出を
世をわかれて春といへり
馬乃毛　同しかうの毛馬乃さく流乃毛とあすハ
善く春乃中よりも不及得く
馬の人　春なり　紀日乃なわく馬乃角乃
ゆるしても春なれや純潔ゝ
枯野乃霜　右を小さな寒もしきにて八春也
梨花　花ハ梨ハ雑なり
実ハ秋なり
まれなり　正説也
よ那
なしもあかり

むらう　同前

鎮花祭（はなしづめまつり）　花乃咲比疫邪分散して人をなやます也

これによりけれハ清めんためとすり

花さかり春雨をいとひても春なり　春雨雑なれ

花もちり葉をいとひてハ春や其節に文入

詞乃花　春なり　春の用なり　ありといふまゝ今京都より

心乃花　も恋なるかたへ入かり二句嫌也

花かるの花　も春といふより　桜たい　よく似合あかきと

さくらの比ひくたいのまゝ也又桜色乃たいをいふより

桜貝　同前なり　名ハ沖まて春といふより

桜田　よく似合り　桜乃あかれすといふなり

遅桜　春なりおそく咲といひても春なり

なかき日　いそやらぬなかき日乃付合といふ句も春なり

ほくらきは　春なり　うす霞乃心

なとふまはかすみてもへつらひといふより

霞　よつ霧ともいひてハ春也　此外乃執二る嫌ふ

ことよおかしつれはさりいはてそ乃季りまゝすれ　霞ハ妹へさそ霧秋乃物なれとも

春もちくり和漢とあり春にいはれ

ゆゑり和名ミすそ乃ゆつれより春よあるなり

此外〳〵　かすむ　と云絹ろう小さすいといひ

へとも背柏乃句り

りくへかいひなしかれんるとき春の句なれとさやうれ絹ハ

此大ありらへもその季りなりや此外〳〵

又

さきさきへ　りこしあくれたりゆくみとして
もとをり

三冬つき春はくるもの　かくてさらり
春とあらはれ　たの河とをり

長きあ春ふあもや　きしてと皆長
や紙作

春はいて　なよ四あらり四季よよ
四月　とり季立つ

夏

夏衣　ちりうちねの新四月一日のすり

祇祭　夏ちり名をすすりハの頃を季

大祇つり　四月上卯日や三稲祇祭ちり

稲荷のまつり　あの四ちり

平野祭　四月上申日仁徳をいをひ立てり
つとりいつり

松尾のまつり　四月四ちり

廣瀬祭　四月宮ちり　松尾の影よを
山と風の祭をいとり

河殿の母屋よりまんとり
ちり　灌佛　てひのあちよ山を飾り樹の
生れ給ふ

吉田のまつり　四月中の子日や

日よし渡り　四月中乃申也日なり

賀茂祭　神山みあれ乃まつりや　四月中酉日なり

賀茂乃見物　同おのすなり

あふひ　葵と桂とかつらといふなりのろ　ともくさきたりくり神山のまつりもあつす　なり下賀茂ハ河社上ハ別雷神なり

榊取　さいまりたくさらひきえくさらひきうえよ　なきも夏なりあしれ

花　若葉なり山をいでハ夏や若葉も山をいでハ

桜　ちなり　桜とも山をいでハ卯花ハまなり　花ま

山をいでもかとくさすハ夏なり

郭公　うぐひすより山をいでまなりや

けとふる鴬　鶉鳥のけとふるこれなや

鳥屋鷹　水鳥乃巣

水鶏　夜たゝくや　あけるや

鴨川　乃ながれまた鴨ハ雑なり　ゆくされ鴨ふ入るや

天河　うめの初く　のこすとめる　なみきなり

鵜かひなり　獣狩　ますなり

照射　ささかおなのれこれ　なまなり

麻子　かくしなまのれ同なまなり

鮎　若川なりけりあゆハ春さび鮎ハ秋みる

鮎　そ乃季なり　八

奥梁川　[illegible]

菖蒲　[illegible]
端午ノ六月あやめ乃うを菖蒲の
[illegible]
[illegible]

[illegible]乃葉　草[illegible]
[illegible]

楓　[illegible]
長楓ハこのまたり
[illegible]

常盤[illegible]乃葉

[illegible]乃下草　[illegible]
[illegible]

草[illegible]
[illegible]

[illegible]
枝乃下[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

鶏乃草筆　[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

蓮　[illegible]
[illegible]

[illegible]草[illegible]
[illegible]

[illegible]草
ゆりの[illegible]
[illegible]

杜若　[illegible]
[illegible]

和布刈　八月

海藻乃花　八月

海松　八月

田蓼　八月

玉川　八月

竹　夏

梅雨　夏

雷乃音

汗　夏

氷室乃雪　夏

醴酒　六月

祇園会　六月

清水　六月

[illegible]

[illegible]

明やまと紀乗 [illegible]

[illegible]

みなの月 [illegible]

御稜 六月晦日や但昔の[illegible]と
[illegible]

[illegible]

燈

一葉ちる 一葉衣たゝ一葉とつゝる初秋や

柳ちる 初秋や先柳相をちりそめ

桐の花 桐の花 [illegible]

初嵐 [illegible] 扇を置 秋暑しる秋なり

星合の雨 星[illegible]の具をと別よりの雨

[illegible]の赤の[illegible]の類

紅葉の橋 天河の[illegible]

蟬へきこと いとり

天川 舟ふとひとひして へ 秋や 兵天河の八ヶ所や
雅や 河内よりあり 登山 ゆ ゆ 見
乃あひしらひあり 編 秋うり

乞巧奠 早とすつうるうや 色りとちをたて
たりあり 乃とうてり乃けとう
ちうあり 天平勝宝七年 ゆうり
祈ひ乃いと とんあるよの行よあるとけ
てり よりあるとうるうや

煙去衣 七夕乃具うり又年乃ちうる云
すも七夕乃うり

盂蘭盆 鳥屋出乃鶯 物寄
むうり
ちうり
とひてと 秋うり

初鳥鶏 小寄うり 新小寄
れ秋や 鶏 こけうるの新小寄
ふ秋うり

鶴 とふ字入る秋や小寄と
云 河内 秋うり成 たり切りとひ 乃
論 寄うり

小鳥 秋うり小鳥とうりも秋うる
しとうる 院あり

色鳥 ふうり 鶏乃巣籠 兵庫堂
色乃うり

鶏衣 衣のうや 秋 新とひうり 仏
巣 よ秋よ二月 蝶色

色こ 秋うり 新うるとうる 院あり と云

みさ山祭 七月廿 日うりこさ山うりも 仏
ひうり 仏 ひうりや 仏うるうる 山
ひうり 仏 ひうりや 仏うるうる 山
ひうり

桐擬 七月廿六日百合 日廿八日や 接出印く
廿九日や 年中行事 寄 河あり

小野祭　八月廿四日

龍田姫

萩戸　同く萩殿と称らるゝこと
乃おのかとゝ乃ゝ清涼殿乃ゝこの日二月

芭蕉　萱草　同く千枝と称
草

蔦葛蘭　不万結び

濱萩

水汁草　おなじく

西とり　きのたゝい

宇治乃花園

生敢　同八幡の

紫乃花　きくさ八幡やむさしの
きりぎす　八月十五日乃すゝきあ

望月駒　信濃乃勅使乃駒牽し俗武河国
みか八月十五日

きりぎす乃駒　あり

甲斐駒牽　八月十七日

武蔵駒牽　八月廿五日

上野駒牽　八月廿五日

月乃宮　月乃宮　秋や月さえて
八月十五日

月乃都　みやこの乃名なり

月の桂乃郡　たく桂のむらとても秋や

月日　とつれなき初秋なり但月の月日なり
乃日なりこれ秋なり　あるいは月日なり

星月夜　月乃字ふい　盃乃夫　なとても秋なり
ある古なり

虫ひくひ　ひくひ乃思　なとひくひとても秋や
月日なり　なと

ひくひ乃六夕附日八日のなり秋なり

いなむら　たのむ乃鴈　田よりなる
なり

ひくねさし　さしてとても秋なり

鴈　なり千鳥なしひとしてとても秋なり

秋なり　秋なり　鴈乃秋なる心なと一向不緡
さ　秋なり　なとなる　鴈の心なり

鵲　いと高なる音なり　なる音なりなとても秋や

鴛鴦　ホ　なり　深きなり　河山なとしてハ秋

秋　秋なりなと　秋なり
しても秋なり

櫛　なとも田舎地なり

雁　秋やひくなると云
たハ北秋と云流不緡なり　秋なり

雁来　なと秋
なり

鳥乃　乃　勿論秋なり　秋なり

梨　実ハ秋也　柏　ちるをもみぢをも秋也
花ハ春なり
柘（ざくろ）　秋なりとぞ山といひても秋なり　柏といへり八雑なり
説あり　秋なり　可成歟　あらしと云
姨乃衣　きぬきぬの　ゆふあり　流きぬめ　八月十一日京
萱せき蔦穂　雅宮乃御稜　官乃除目也
ひくらし　うつせやる　くらべ馬とも
鳴かく　鹿の狩人のまや一統り秋かぜ
きひ穀　とりもちても　おし鮎とり　養して　蒙り
紅葉　かり　青りきくとして　八秋なり
地行く

御燈　九月三日より　くる秋乃燈
とよあり天子乃北辰を祭りたまふなり
きしのひのかせ　わくき事なり
重陽宴　菊花酒をのみ長生乃縁あり
残菊　秋也　九月十日より残菊乃心なり
伊勢奉（かう）幣（へい）　九月十一日なり　伊勢の海の
波乃音のゆふをともあり
こけもむすりは流りまくりわかれの
思草　萱秋乃　月草　萱草も同じ
あまり
柞　より萱　萱色と　字うくれと紅葉
ことをもひいて八秋なり
雁山の色　又うつろふと　霜　よかのつ風あと
類こたれ秋なり　云ても秋や

悪草　枯なり　霜かれ康し　冬としても可

小田の稲　冬と定編　枯なり

稲妻　りんわうにすゝむとはり縮て冬にも
かまはし

なり消　ひとしきりこかれしそよの稲これ秋也
因ともかやふきかへて縮も揺稲に二句嫌ふや

むらの萱の色　冬にしても秋や名草山
り色の字をそへてハ冬にかはらむこと

萱り折稲　秋や秋なりそれ秋にあらずなり
そもゝ秋なるへし　ほと云一説に

胸の霧　霧の時冬とも
秋や尋ねやうつりかはる人秋にむ
冬ともに秋なり

ちかしむ　定編好なりやさむさきさ
しきりなと冬なり不及秋にも

秋さむ　すこしさむしとよりはを入ては冬
なり好きしきも秋なり

冷　おそうしきるとこゝおりそわハ秋と
云り不審やハしろしく好なるへき歟

露霜又露時雨　此は二色つゞきて秋
ゆりしきいゝても好なり　やつはもと一句の

露霜の　冬としても秋なり
さむさ冬にしても秋なり

夜寒川袖の霜　冬にしても秋なり

りうめ色や松の一りと　なと云句の
字入ては大解　秋なり冬なり　聞秋や色と

食 雪もまくもしたしてい秋や紅葉乃ふる
ていそくもいつり
草 ちるは色ともなくても紅やうつる乃編
草乃類なり
紅葉乃ちる 秋や山乃ふかまるにつれ
川のお葉 もくても紅やそうは
色ときとふいくといつり
もみち乃色されちる もくても紅や
色ときとふ入さ山
秋なり まちくれちる
ちりちる まちくれちる
川落葉 もくとうくうつり秋なり
落葉乃色 かくもくとうくうつり
て秋なり

紅葉ちりハ秋さむしうき松風 なとゝ白も
秋や紅葉
時雨 時雨ハ秋さ
冬
十月更衣 朝日や衣乃衣乃日げさ
初霜 霜や雪
秋なり
同乃ちゝ 清めなり紅二白嫁といつり
弓場始 十月
月や
紅葉乃ちりて 紅葉ちりもくも冬や

もみぢ　もみぢ

枯葉　きりぎりす　ひぐらし　はぎ　ふぢ　ゆふ　ゆふ

末乃葉衣　末乃葉乃　末乃葉乃　末乃葉乃

枯柳　きりぎりす　ゆふ

久草乃露　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

草　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

行く秋　行く秋乃　秋乃　秋乃　秋乃

下月乃さゆれ　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ

月小さゆれ　ゆふ　月乃霜　ゆふ　ゆふ

霜乃さゆれ　ゆふ　ゆふ

初雪見ゑ　植武天皇延暦年中　ゆふ

雪乃霜乃さゆれ　ゆふ

霰さ　ゆふ　ゆふ　雪　ゆふ

淡雪　ゆふ　ゆふ　波乃雪

乃乃雪乃雪　今ハ冬　ゆふ　雲

雪の山　ゆふ　ゆふ

為水　加茂のみたらしゆく水のみとしてもあるべし所なるべし同月の

氷室　氷室の儀式は十一月中の御神事なり

新嘗會　十一月中の卯日なり

豊明節会　十一月中の辰日なり

とよのあかりのせちゑ　大嘗会の御禊よりはじまり禁裏

のはてまでいとなみなるべし

とよのあかりとてうたうたひあるべし

小祭　賀茂の御祭の後なり

日蔭糸　なりもとの日蔭糸

てかんなり　小ゑぼうし

小忌衣　ときの神山のひの神と日あり節のまひ人のきぬなり

会の時用ひなり

里神子　いにしへは冬なり大裏の外なりハ

神子　なりもとの神子

榊　榊なり

榊の木　榊なり

榊の木子　榊なり

榊の木子　榊なり

庭火　衣くなり　冬や雑なりと

綱代　りなりとも　冬や雑なりと

綱代　りなりとも　冬や雑なりと

氷奠　鷲狩の類亦冬なり

特場乃雉　昔のうつのめもち鳥を
へ草を代外寄組寄乃道具ことく皆冬なり
長乃歌のまこと又よやこめハ夏や秋のもこ竹
ともよりは春ともよりは
ひつ〜きのうり

あらの乃むし　鳥

千鳥　寄ともひとしく夏
ひとしてよ

秋なりと冬なり

なるの史　貝なり

食　加海名なり　紙　貝なり　肉　伊勢御神系

十二月十一日　荷ぬ使　乃きの名ぬきよりなり
十二月十二日

佛名　十二月十九日なり之日乃夏や佛に
なるなりとよりなり
年末　なるなり　なるなり　ゆく年
去　とよりなり　なるなり　なるなり
節打　十二月晦日なりよりなり命婦を
いのありて天乃御けを
ひとしてなり海〜乃御武の神けなり
とこしへなりなりもりなりゆく年
儺名　月日なり鬼やらひなるなりよ
なり桃のなり　産乃矢をもて邪鬼
をはらひ
なるなりなる
乃郡なり

年内乃豆春　豆なりハ冬
なり之よハ春

四　恵季詞

諏訪祭　一ヶ所より七十五度あり　社や

榊　社や榊ゝと　いつく事や　菅原宮　恵梅菅原

葉守の神　添き道　社の玉のまゝ

法乃寺あり　社や

きるなとり　黄泉の　心月　心月梅の

月日　とつきたる　月日の　天乃橋

水過りあり　社や

いなひかり　雷ふるとあり　催馬楽　内うちめ　社や

美濃山　石川　葦垣　葛木　真金吹　筑紫川　奥山

浅緑　御馬草　竹河　社殿　河口　倉垣　鶯山

浅山　田中神戸　言嶋　婦門　大炭　長浜

総角　貫河　能島神

東屋　交神　遊女　君門　大井

浅ゝ橋　大道　美柳　遊女　西寺

鶏鳴　雑海　浦や　遊女　何為

ゝゝ乃ゝゝ乃名やし外ゝゝを明をゝ雑ゝ

篠壺　梨壺ゝゝ　とゝゝ　嬉敷

とハ秋ゝつゝ　敷つゝ　社ゝ　不富

ゝゝ　惟乃書ゝ　ゝゝ　ゝ

定壺ゝ法度を　守ゝ

ゝ乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝゝ　ゝ

松乃ゝゝ　社や

ちりもまろみとりも冬なり
松乃落葉　椿　花といはひてハ冬なり
薄紅葉とつゞけて　絹雑なり　柏　これてかしこといへ
りとて秋やと云説不謂や　こゝろ雑なり　てゞも雑なり
青葉　もみとしまひ　てハ冬なり　夏乃葉ゞ霊　此のこれ仲同季
常葉も　雑なり夏といふ説あらし
山櫨　常のなり雑なり雪　むらさ小雨もつなり　山ざ
紫　雑なり　てるしいさ紀ハ　冬や花とひまいてハ秋や　蓮　浮芽ふも　同雑なり
岩尾草　芭蕉　もとしましぬ　てハ春や
萱とる　常せて

といひても雑なり　野乃志ける　花の雨とても雑也
市乃花　ふるやりれどいふ雨ハ句ハ許り　まれつきなり
波煮色　句乃ふるそてよなり　春の季なるべし
志賀乃山ぶし　同季　野遊　雑也
霞の関　駿河ハ雑なり　霧ハ関乃名也　まといハて句編春なり紀也
清水とけハ雑や　むまふといへハ春や
手向山　同季　野鶯　同季
鷗　九月の乃むさ外雑の　馬鹿の友はし
手向山　八句編雑なり
鶴乃巣　同じく　子

鳰（にほ）同じく浮巣　むさゝひ　雑なり

うけらみ　雑なり けふの申とまれも 夏なり 其の心にて秋よ夏なり

つきぬ夜いより涼夜りハ録なり

藻にすむ虫　われから　雑なり

鹿乃園　佛乃法を説ましゝ鹿野園乃事　あはれ雑なり

かゝれさして　などいふ事　猪　狙なれかあたくひ

雑乃獣　不及沙汰

頬乃雪　雑なり　りとより　眉乃霜　同前

かくれ火　雑なりなき思ひ御わたる夜か

また雑なるべし。

かゝ風をいふ　あめりかしく　雑なり

かくかへ　かとかはし雑なりまひろき虫へ　りた綱纏く

五

非祇　かくれ白虫乃数八のぞ　雑りとよまれ

天岩戸（いえ）　八咫鏡（やたのかゞみ）　真坂樹

神路山　神山　斎宮　鶏乃

羽かて　ちきこえ　板枕

火焼屋　大内にてあり　庭火　いさ佐

あひのゝ乃類

よ[illegible]へ乃小　出たる

小[illegible]衣の数　東極　東子

し女子乃数　以ものの　ひとゆうこ

小へ　御板　[illegible]

韓衾　[illegible]　前帳　[illegible]外

[illegible]非紙乃初[illegible]

六　釋教

鶯峯　鶴林　彼岡雨加[illegible]の数別より不及記

我[illegible]

枝山　宝乃六　家[illegible]

碓小[illegible]　三車　三世

其曉　一夏[illegible]　[illegible]一夏といふ[illegible]

むへ乃雲　常灯　衣玉

山伏　二月乃別　六道

胸乃月　心月　檜[illegible]　[illegible]乃[illegible]

[illegible]　種[illegible]　要文　[illegible]

七　述懐

苔　古　老　生死　世　親子

若衣　墨染　隠家　捨方

憂方　命

十二月の外小

白髪　我齢

乃ち付捨く　影の

古来道

鏡の影のうつる

ことに

ちとつきてハ述懐ことつりハ

世述懐世間ハ軟教やとうり

八　哀傷

霞乃谷　塩二十山　山家

白ようつ　かりの別　若衣

つ　ゝ　ゝ　ゝ　道　別れ

世久の煙　古枕

古今 恋ゝ懐ゝ懐と云と山を
ひて山を云の句ゝ
懐ゝ懐ゝ懐ゝ懐ゝ懐ゝ懐ゝ懐ゝ
の打ゝ懐ゝ懐ゝ懐ゝ懐ゝ懐ゝ
為念ゝ歌ゝ

九 山類

山姫 山人 他人ハ山類よりあり

ヤマトタケ 山梨 なよたけ

山ゝ関山類やとゝ
おゝせきゝ

伯耆寺 唯在山関山類
ゝやゝ

伯耆乃鏡 山類ゝ宗祇抄ゝ
ゝと今ゝ

恋乃山 俗句ゝ

浮嶋 ハ山類や浮嶋ゝ原ハ

小嶋 日本 菖蒲乃嶋 松嶋 ゝ迄小

ゝ乃ゝ 日本 山類や

あゝ海 菖蒲 ゝハ体用乃外

冨士 ゝ

[illegible]

松末　松人ハ山名の号

炭屋　炭やきハ此山ハ

滝川　滝ハとはの字入て

雪山　天竺乃山の

畑　[illegible]

牧山類分　山名ゆえ[illegible]

雪山　天竺大雪山の[illegible]

[illegible]

鷲峯　牧山類

雪山滝　[illegible]

山畝　山の字ハ畝の字

山島　島の字ハ嶋人　山の字ハ二ツ

人ハ　山科乃矣　吉田河

田義乃鴻　富士河　宇治乃河　嶋

三嶋　定ハ[illegible]

浮嶋ヶ原　鴻嶋　[illegible]

宝の八鴻　水[illegible]　淡海鴻　山[illegible]

[illegible]　河鴻　[illegible]

[illegible]乃関　能麻路　同能麻関

末賀野　吉野　芳野

小野乃奥　小野　小野

[illegible]　三輪

[illegible]

小伯瀬　[illegible]

[illegible]乃松　瀬津瀬　[illegible]

瀬津川　[illegible]橋　遊[illegible]

仙人　炭焼　人倫　氷室　同氷室　[illegible]

薪　[illegible]　[illegible]

猿　[illegible]

十　氷島　舟学

[illegible]乃神　[illegible]

敷生　神祇　[illegible]

法乃[illegible]　三輪　[illegible]

[illegible]　松　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

乃名所一切うあり迄うけうけ

難波津 なにわづ 清見寺

名所乃川河 浦よりの海関

といはれ名所川関ハ海ハ関ハ

とよむ 海士小舟 とりしても

淡 乃編名迄うり淡路島といしてハ山ハ

田蓑嶋 三嶋 桜乃三嶋乃ものや

海きの嶋 志賀乃一松 みとしてハ

松嶋 小浦ハ 水家 御板 乃名所

波乃花

田井 乃洗乃水

水雞 千島 乃迄

汀の蔦蒲 乃

海ハ 乃迄や

乃草の

丹後の八庭 海の原

月のてらす

[illegible]

[illegible]

難波 [illegible]

志賀 [illegible]

[illegible]

任書 [illegible]

横川 [illegible]

[illegible]の恩

[illegible]

栗津 [illegible]

松浦姫 大井の山 [illegible]

白河の関 [illegible]

[illegible]の尾上 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三瀬川 天の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤くなりたるを　いろくけひ乃たる
なりひとつ思ひたり　又　ひとつにてかゆたり
くれよ給の歌　汗乃玉に
かんたうたり　小田返
月乃秋　渡宿泉の　あまり同前　まとりとても
苗代　千蘭泉　小田乃材　あゆまかし
まよくれよく山家のけふしとりても
山家りハまつへき歟
神祇に　祠の海　硯に
布河に　如意れ　網　岩
鶴　鷹　鷺　鴨　いかるれに　迦えたるに

み鐘也乃はゆりきもけりゐのこれあかし
に鳥　なよさる同前　衛寺乱　同前
淵瀬よかきゐおもひ　あゆてふと
はり共経句似よまへし　てはゆり
うちの那　うきもし　身云　えとそ
うちよ以ありたれきもしきつりやいよ上
みなみゆりはり共

廿一　体用之事

山類体之分

峯　高嶺　嶽　岡　洞

尾上　峠　禁　坂　谷　嶋

この外山よりの関所のたぐひ　冨士　濱　濱間　葛塚

なべて山は体用乃分乃体なり

用之分

滝　杣木　材　炭竈

水鳥体之分

海　浦　江　濱　堤　清　嶋

與　礒　干潟　岸　汀　沼

河　池　泉　剣　剣　剣　漸

滝　たきのせとりいなどと用分

用之分

波　乃　水　塩　水宮　渕

多洗乃　雨　伽藍　清乃

なべていはゆる用なり

体用之外

宿　末　舩　流　堤　屋

塩焼　牡蠣　菖蒲
葦　蓮　真薦　海松　和布
藻塩草　海人　奥網
釣竿　筧　下樋　筏　千島
乃馬乃類　わと云字ハ用ル事ハ
いと体用乃外ハ
居所体之分
軒　床　里　窓　門　戸
樞　蔓　簾　簾　垣　塀

用之分
庭　外面　簾　関屋ハ屋根の屋ハよ二ハ
乃扱ひさしハ　簾ハ体よ不簾関
又　窓乃戸乃　階ハ上屋ハ
階ハ上屋ハ　寺家ハ出屋ハ
雑物体用之事
假令屋とハ乃ハ　ハと付て又ハ乃ハ
付ハ　ハ用ル
是体ハ　ハ
長とハ白ハ　縄と付て又ハ
ハ　ハ
ハ用ル　ハ
ハ　ハ
ハ　ハ
ハ　ハ

長短三種に用ゐる式用もまた是なり

又いろく接頭生新ホとなれば外にもまた二句なる
なりをもて新用の句は三種三句足
とゆくくしく三句なるべし今んあの神用なり概令
波をもて浦と付て又ゆるかとはゆくくしく用乃
中より新へこれ多中へなり芦水鳥舟なり
ホと乃体用乃ホなる句なりてけへしの名前
なるなり又体の中へ用をいわとあるひは体用く
用体くあるひは体く用用く体とはゆくなるくし

十二 天隅三句物

月日星 必ずしも天象乃名
雨 霧 霜
雪 霰 霧 霜 雲

煙 草 草 雲 鳥
鳥 獣 名所と名所 又 名所
と同乃名は 七夕 月日 月日乃名なり
三句なり

十三 天隅五句物

同字 日と日 風と風 雲と雲
煙と煙 但ここは七句隔く 地と地 山と山
浦と浦 波と波 海と海
道と路 夜と夜 夕と夕

草と掌　鳥と鳥　獸と獸

虫と蟲　志と志　榊と榊　為と為

為と爲　居と居　蓋と蓋

懷と懷　懷と懷　神祇と神祇

輕敎と輕敎　神と神　衣裳と衣裳

充裳　山と山　山乃名所　浦と浦

浦乃名所　原と原　と松原繁木く乃ふくうるわしき

色うつりしかみるべうもあらぬとそ乃内りふく

十四　可隣七句物

同季　月と月　松と松　桜と桜

田と田　衣と衣　夢と夢

海と海　船と舟　船字　船天河

舟乃隣七句物乃内へ入べき色

衣字　衣乃字　衣磯　衣木七句色川

袋　衣川　衣子森　衣乃字

衣不可為

田字　田田田と字　松　松浦山木同季

田田田乃字　田乃字

弁字 よ竹田弁河ホ川ヒ淀舟
思衣河おこ例ろ蝶み句

十五 面の句 用十句こ内ろ蝶
事

發句 いろはの内の書籍市売をして
も工夫仰意をめくらして
もりそもこもりうるきるる蝶や發
句よ名茶法文おわいそわよろさうひ文
名茶ちるも仙ち彩ろ雪月花ホの時節も
仙ち發句うりそもうやうまへ〜ろりうんろ
ろの祇脇句よ不仙今京山るるのやうろ文字
うそちうこ高世ちこ見をうふくちとと

脇句 枕 竹ち皆七
句ちや
句ちや

第三 ろりハちるす市悦めれるすちろ
を脇の四ちをろう一仙ちく南く
付ちろりよよれうんてい文字をにてと沈
ちるるすもれりちうく普通ホハてろりうんと

ろりちうこ
四句めろりハいろ
ろハ四のまろの風るすとて蝶や
都ちは ろろり十句ちりあく仙猿の句ハ
不苦や蝶とりい字も猿ろうて不苦
世の字柴れ宮ちうこ
しろろれ
懐海

郭公懸文 きう
ろのやうろうまを書てりハ
ろ用ト云流ろり仙不苦九云ろ
ろのろさ行くといろハ女も
ろ出ちうろ用といふろうろり
ろ出ちのろ

俄芋生沈
ろ不ろ沈山歌
ろ云句よ々ろ沈ろ付
ろ際限ゆへ
暑ろ

森 とろ
ろすれろ二句川金て名ホよ成ホ地

関

堂塔供養　又尊宿をもいて経教の
いとこの院あり不可説句度くあり脇り経教の
ひたすらひかへんの句をもいはの

神祇を發句　脇は毎度あるまり必服
うの神祇仏神祇をもいは

名仏乃發句　脇は又名ありくといり去
をもいはひとりたりたり経教句をもあり

迎善　句あり脇経教句ありくとい
り仏時宜よ

常乃会　常は發句をもいは
うは神祇経教

懐懐四衰傷志ホ乃和よをもたりさ
りくあるやは拾遺
遊生蓮生るの草屋をもいて嫌や鈴多
ちうりまとホ十句乃内ハまし
打乃字　字四ハ二句嫌て小をもは文
字四ハ二句不答他作

関字　四ハ句ハ嫌り九句十句めりあ
句去乃字をもいは

風　とありて句去て文あるの新八句は
ゆをもいは他作

四乃連歌　ハ山新あ連歌四浦四をい
かりくとやはたとへ序ぶりあり
りいちんるく正風神祇りあり

祝言句　連歌ハ句ハ長秋の句
句ハ四あ句やとい祝を

一向ナレハ俗ナルヘシ四季説ハ
ヨキ句ナレトモ作意ヤ俗意
雨乃白月　よの白月ハ都より西説アリ
十六　梅廻之事
薫　とハ匂ヒこゝろと付て又紅葉ヲ付ル
ハ心ハ花ヲ梅ニ付ル
とハ心ハ花ヲ梅ニ付ル
もこゝろとハ心ヲ梅ニ付ル
ハ心ヲ梅ニ付ル
煙　とハ匂ヒ雲ヲ付て又霞ヲ
新不可付とハ梅廻ヲ
夕立　よりハ雨ヲ付て
雷ヲ付ル
月ハ他説ヲ
雪　よりハ雪ヲ付て又氷
夢　とハ匂ヒ雨霧ヲ付て月ヲ付ル
いにしへ式月ヲ
ヲ月とハ山海草ヲ
ヲ月ハ梅廻ハ
ヲ月ハ梅廻ハ
梅廻之事
花ヲ付ル風雲乃新不
及説とハ匂ヒ
ヲ尾とハ乃紀雲
花乃匂ヒ山ハ雲
雲乃付ヤウ
き風雲ハ

又いとく彩よ梅櫻杉あるものつくるわハ杉と隅
てもをのれ耳よりたりわハうさまて付へく
ちみを遠梅廻るりそ御雪月むともよ風雪雪
勢ふよ四りう白水るく遠梅廻乃ちんハ枕ふ
かんん欄

十七 操羽之事

春く分

長船 春河 花乃川つ おとりふさ
とも

櫻丈 庭櫻 うと櫻 花よ鶯

とりの羽あり小乃ふる
くりてたむ常とハ四月
ちりの下小ちあかうき
ちりのり

梅乃雪 紅梅 小柳

玉の小柳 ちりあ紅ハつ ちりう

花梅 梅乃ちりあ紅 白樓

鶯乃おかう 松乃月 おなの月歌とハう

松乃歌 夜鶯 はてくあ

ちりつちあとハ彩ハ

夏く分

夏さりり 一文彩りあとハ

夏菅

春まで　春楓　若楓といふ　春桜

梅乃雨　むかしハわかし　夏虔乃句などあり　ありつるハ不好とおもひて世用の作

発句ハなくし

雲乃峯　あきにありまじきこと

まやしれ　續

蚊遣火　螢火

ひとつれなどとつけてハよし

初時鳥　蝉しぐれも　などいふべし

後れ乃字一首　などいふあしく

とりかり

とりきり　きはよし

涼ひろ　もろいま

うへ田　俳句乃つけ　やまよろし

夏川　鵜の心などにて　此ハいふとあり

秋之分

秋雨　秋扇　萩乃雨　萩が風

同じくきよきかたるを　これもぜひとハいふべし

萩草などいふ　薮

屋へまく　菊も　おもし

やへよさく葉　などいふべし

地在し

あさ月　無月　天明月　などいふ

田下月　あさ　思出

田かり　同とりハ　ハよし

遠田　末山田などいふべし

霧雨　扇乃書意　鶉

うつ衣　はこぎぬハ何拍よ　まことしてあり

冬紅葉

紅葉もり

冬ごもり

神なし月 冬船 冬雁

冬風 冬柏乃道

冬梅 冬菅 鶯場 うれ島

歌枕 さよ千鳥 山ゝ

もみぢ葉 小春 十月かぐら

けぶり 冬籠 冬恋

恋ごもり 恋ハ別名ハ物ゆゑ

恋心 恋乃こゝろ

恋しきこゝろ 恋しき世

恋草 新恋

中乃文

恋人 四百書

遠書 恋書

夢

恋文

恋乃こゝろ

[illegible]心 [illegible]情 二尺[illegible]
[illegible]之 便文 [illegible]契
[illegible] [illegible]契 [illegible]
[illegible]者 [illegible]之分 [illegible]
[illegible]果 ひ[illegible]帯 [illegible]
[illegible]之分
[illegible] 遠[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]道 [illegible]

下船 [illegible]

山類之分

山寺 [illegible] 山嵐

山雲 [illegible]山 [illegible]

岩室 夕山 [illegible]

[illegible]

水邊之分

[illegible]

水田　みち塩　塩くさ

おりたち　塩はりて

うきたち風　もとい船

かぶと　月舟　柿舟　夕舟

船　[illegible]

[illegible]

遠浦　浦人　うら屋

[illegible]

海士　鈴田川風　伊勢の風なとい

伏見河　入江田　鶴音　[illegible]

池邊　波たち　[illegible]

[illegible]

雜之分

都たち　東風　東あ

東衣　[illegible]

[illegible]

市馬　[illegible]

鴨島

孫とり　小とり

まれ山乃駒　聖風

聖里　草庵　庵ね　里田

そうあん　遠里

人里　やせ山里

東京　柳煙　柳京

ゆとはう　旅人　青人

人志一　子を抱て　まて子

衣とり　賤乃め　年たち

そそ乃く　乃論を初るゆ　ゆ乃り乃

老らく　但老らく古人乃ゆ　ゆ乃ゆ乃ゆ　ゆとゆ乃ゆ　ゆとゆ乃ゆ　ゆと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嶋廉り　却て　山寺より

此上こと乃ふるまりもなく人へ
りいつわりふるまりよりはい
えり　上乃白は

いろ〳〵きのりもくく
下はなる乃ものよりは嬢新のす
ものへ　たの乃へ　入れ　をは

月はあり此年とはいらう
ものはて　色をて　新とをる人へ

一　切が不ぬつけはいやうもり

此上下乃白はありよ嬢ものはたかの山たびおや
下はなのふるまりて　なり千白みて二りり
なりの下はいはせ用なるこさりつ当り
ものとなりまりまりもくくまりの嬢新と
以ともおの人乃発白りおりあるをく一ものはる
まりハ鈴白りハ人新りおりまりとくをる
まりの名通乃はかりまりみ者ををひて八大なる人へ
寄乃せいの羽　も夏菴をとハるひへ
ともこれるハおりくこをもとひりとありられ
まりりをを人をりりをりをりをりをへ

十八　可里雅書

儒道釋欣道　を外ハれ乃たりをり
ものや文学ハ密よ密事を

つゝあり世てもすゝ[illegible]千屋世自
然乃通理をもとゝいふ世をはなれて心をもて
あり体もとゝ一[illegible]乃実をひろ
別者をへゝも法乃ふハへゝれ心をうけき風を
ゝ人廉をゝく屋[illegible]
たゝ[illegible]

發句

ハゝの江乃山海池景四季栄衰花紅葉
冷寒月乃上弦下弦の時節[illegible]
秋乃山[illegible]意即ち乃風体也[illegible]
[illegible]千句乃発句又千
[illegible]千句一句人ふ[illegible]

一順乃句

[illegible]
[illegible]

花のお句

[illegible]

蛙

[illegible]

初鶯

[illegible]

鳥なとの句は深山遠谷なとを付物ハ只一二
ぬきしらくつうるの心なり市なとを付
物くしいふなとをさくく称ぞ也此ことハ
もしを雪ふる句なる夜の清れ月なれ物あれ稲
ぬ尽くるの道なり

海士蜑夫なとよいやしき称いふわハ又
やさしきを付てそもんせい
ふく物の月やとわとあもあるを孫を
しそ泊まるよりしくなり

春夏なとの月ハ句なる秋の句なるまあるえ
秋月乃用るまあるいふ物あるま
ひんなりやたしを付うまして不叶而
歌又名句なるうて物ふく力なるるなり

水無瀬といふ初句なる此の集歌乃
中なるいるくこれとて嫌物なと
ある書よりけを連句ハ中とりく本とされ

有よ一字を歌なるるいふふへくれ

衰傷乃句初句のとれあるを如をへくれ岩
の下又親ある人のたるちれの
体又序風儿帳なるくこれとて鴻の道よりなとえあるとふ
てなと云称兒サ人ふ者ふいつれく不仙合
たるくれとゆうとえゆうふ小やさく正風称をを
物なるふ色

老後乃句ハ又幼サなる時の心持乃やさよ
弟をめくこれてよたれせいのつきたる方更
とた人の庭訓よあり乃ふ称なるくれ老の句ふ不仙合
よなのうをよへてう紀世乃印をいくさうう
なる物なるまなをとかハ老なるさいるなる

博郎よ三ふ仕事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

云ふくるまの嫁ぬりあつまうた和歌をといふ家
すいひつけを用ゆるのうり　たりけるをを用ゆなり

はつかのまうり　たりへうをの詞うり

難波まうり　依歌の詞りをいひつをまうり
ゆとハ不ふくく花島風いかの風
をとハりひつけ物り業板風吉野風をつけれ
らんハきくをかくくしたの末代の恥辱なるべし
ひいをれまう詞をとりひまうり云つけ物ハ
代くれ撰集歌人のたの風の法度をそしれをこの物
らを行吉むは鴻天満宮神乃神意をあれうて

うを記さんく

乃宮よ和のうをむさんくかけくと物りさうふ
をうりまの山とまうをあう人定家ひよ例のれ
嫁のうを記をうハいうをといひをあを是をう

といをんハ定家あうをめ物ひをりとひ物ひをりとひ物ひをりとよれ詞のををかをんハ人のたくをよくいいおいうをひんをハ行すををうんハをををを物道うををを

[illegible]

同意之事

假令宗祇[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十九　發句切字之事

哉　かなり　そや　もや

志　し　き　ぬ　ける　う　いく

いつ　いれ　いて　いさ　[illegible]

さり　より　かな　れり　ける

又下知なり又字ふ　みる切字なり

[illegible]

[illegible]

嶋の葉や　向人なるや　つりそ

山遠し　[illegible]

うゝし　きり　[illegible]

ふのぬハ不為是ハ　波ほす　ぬる　梅いく

[illegible]

月も　雪あめり　[illegible]

[illegible]

[illegible]

是より下句の初字の

月うちけ　もりめ　ぬきとめよ

ちる　明日もきて　見せて

おもへ　ちる野　宮こそ　[illegible]

小野の人　ぬけ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

又面よりの切字

五月雨ハ峯ハ松の梢哉　若乃如

花ハひも柳ハ[illegible]

これ二句体[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏冬張神祇釋教　以上二句ハ
三句ハ
連懐く同世尊　在世ハ連懐く舊
安常ハ上ニ合テ三
句ハ
山類水邊居不ハ　山類ハ神國乃美物
ハ居不ハ
人倫　倫ハ二句ハ不岩三句ハ
二句ハ
植物　二句ハ
宗祇宗長牡丹花湯の山ハ

乃三吟ハ植物三句ありて
その中ハ
九重ハ
近の名ハ
生類　生類ハ二句ハ
廿一本ハ取撰之事
廿字乃ハ三句ハ
月ハ
山ハ
乃ハ

川ミ川ミすおいこうれてくるのみやこいあれよ
くりたる文人のこうりいあまて後ハ都もてくふ
こうれてくり川ミ川ミうそうなかさ　えれをも山
かう分續後撰集にてをの用やたと集こり十代や
今東こ河こりて又近代のの人乃分こうこ中ごの用
へこりて近代乃集ハ作者れう證分ハ用ハ城河
院あ度百首ハ作者にていたとし蜻へ近代集こり為
本分ハ例ハ人のあり紀く不知分とハ付今よあのあ
用や依事こり用ハ分やとうこと事の河こり
本分の例とハ分れかこりよ用ハ例のとくきこりよ
も用よとこりて又源氏物語ハ大部のあるれた
三百ちへ作用一百ハ二百ハこりちきこりと
ここ是後普光園乃院こりて新きハ院とこ今
第こ河や作二条河家乃門乃院より人ハて為ハ
中とうこく三百用こり近代乃千百ふよあひこのり
う是家頼乃院こりたとし自作家頼

乃院こりとハ人ハ近世ハ物語こしこり為二
白こくこしこうれうこあやもりとハこた
ちんこうあこり是こうこよあれて天こりト
名とハ分こりあ古こりたり　ふこりきハひこりあ
又　いこく河とこく心とこく心とこく河とこ
へこりとこ山こく心ハあこくこくとこ
とこれこり先言ハとこりまこくあり今作者
分とれこりまてとこれめこあ作とハこりこう者や

世二　物語事こく事

先末ハよて貴人宗近ハ孫ナ者かよの妃配
乃御をハ行こうひこうと一れしてやこてこて又
臺よこりこ一たここ硯のこれこさこりゆこう
作貴人ナ人こりのれこさこりこりこ同作者
人こここ又臺のたこりこりこ作者
あこことめこて下よとれこてこれこてこ

すべてをもり筆をとりてしてそのて亜二ノ
折てある懐紙をひらけ〻中二枚を又二ノ折て
左の脇硯乃方よりて座をのきハ又座のよゝうに
もいつわゝうの乃方をもりうすもの所亜
し又臺の下りをくるあ〻紙せられ所
なとハこゝろいすれ所ハ懐紙を入ともに硯の方をうけてとくつ
を下給るとし左の懐紙のいたゝ空書をとく
ありをれハ中二枚よりはゝ紙乃あるもの
ありの事をハ中して書へし紙雪月花乃發句
よりをくさうい當事ハ紙乃あるもの書すをあり
ひう懐紙と書て賦といふ字を書てあるもい
りて紙や發句をなれてを座のをを人好去の
うをうのかつり賦ハを定らると一度續ノて
うつりより發句書て又續ノお後よゝ左是
人のいををよ紙又名号ハの連歌の時ハ賦乃字

句紙又ハ連歌名号ハ連歌をを書へし編
歌乃又をとハ要又の連句と書て寺社の仏
貴地景ハ名号をとハ又名号をとハ
乃ハつりりハ夢想乃連句ハ發句を書
て懐紙よりへ又臺乃ハ一順出来ハ
と其一順を墨をハ懐紙をハ
同一懐紙をハて又臺よりハ
つて永て面乃ををて一順を
又つて中て又臺より下よ墨て是て賦字乃
夢想之連句をとうをて發句ハて書をり下よ御の
字書へし左し今ハ御の字ハ左ハ御の字ハ左ハ
て脇の句ハ発句ハ左ハ脇ハ左ハ脇ハ左ハ
発句を立をれ出をあ〻脇ハ書へ
のあるを同一ハ出ていを八月花
をて仕合ををを又脇の句を
ハて仕合ををを脇ハ神道の名代
ハて仕合ををを脇ハ神道の名代
ハて仕合ををを脇ハ神道の名代

[illegible]

[illegible]

[illegible]

立りいりて[illegible]時よりを[illegible]
あひとなりまして[illegible]是ハ道ふかたるもの
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
一神[illegible]又[illegible]乃奥[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]の侵者[illegible]
[illegible]中[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

二[illegible]

[illegible]

いらかの色

[illegible]

かたびら紙

[illegible]

教

懐く用る常

[illegible]

懐く用る常

[illegible]

懐く用る常

[illegible]

懐

[illegible]

懐と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の所心風雅の命魂なりを一座の貴人
客人サ竜上なと及ぶもなくつくりなる
これをん後八年人と[illegible]仕自然名句を出
来たれハ不二の及歌酬雪月花の紙はたの
[illegible]なり

文字あまり

歌或ハ及句歌の歌酬
たる仕方一定用の字を用ひ五の字と
いふまりなれハ句をいひ五の字と
なるとハ別よりなきやうなれハ句の
二三と分れなる紙上の句り
里ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
あまりなるを耳よりなを堪能の人乃ちなを
それよりなを[illegible]人への内ふへきなり[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

名所乃打のうち

裏は一順 西乃一順乗海乃ちくとゝ
とゝやくとゝ
あ市句 表ハ[illegible]ハ一句ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ二句
句ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ仕方人[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
たき句なと不仕合りの[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

出席 会席作法之事

其席ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

くをもつて人の目をよろこばしめたりしかとも
後日乃形儀おもくして古人の去をの
ぶ一中に郭公禁句ふかしとあるをもつて
しといひ言新候言葉ふかく吟ふ所中さいかく隣
庵の郭公より貴人聞給ふ日声をいふ吟を
へ〳〵と連歌自他ともに心をつくし称りあく
ひたすら所業をもつて宗匠をこいたうう
ものて人の耳よろこばしめんをこころうえひきく
いとして物業をよろこばしくこといはるす廉をあるまく
よひ〳〵てつひあるとりの人よりてもあるさ後の
ゆ所更なるあるとりてさいかく用捨きへ
しいと狼藉をもつてさいたい思ひを花鳥の
色香をもつて心を千里外よりめくらしたとひ
まい物をもつてあらうとまきるわく人の目り
ゆ所耳にふれるるかく人の句
人の句を出とは所あるへきかくかく他をいふ

ありあり所あるとうすうるをく心を鳥をさ
まいりのあり一句あるあるうあるの句をうとよれ事とり
事をさきゆりのあり初心としてはをとをはの
あるをきゆりのあり初心としてはをとをはの
ちひとをはいはいりあるところよ金言をきそそに
会席といそくへりしに緒礼とあるり慇懃をあ
さりとあるゆへよ二度よりはは千句をと
いれ代あるくと共千句飛筆をあるて指合と
句へりしに他一方の宗匠をいふ名分のあ
自称をあるりあり飛筆をあるをあるて情をいそれ
そうあるりく有千句をあるりくくの句をとしく
あるう句をたとひ秀逸あるあるりくもとへりしに
称句あり人の付をあるいはをあるををへりしに称句
をあれと吟をへりしにそれ名はいはを用へ一歩
をして雷月をもをあるりをいきをたりをかりう
をとをあるりき和をあるりをいを河四乃馬車をと

以ての外の相違なれども毎度よみ合ふ内
にて初心の者はいかにもこれを去
て学問をいたすべき歟へきふあれば和字乃
たるわくつよかるべきふかいつる心や博学の胸
よりやいまだ立ち初めといひ出さるうてありうて
作りなれどとうも立ちやすきの一歩難を出
れあれん時は古事をもつて〳〵出れば花實ともよ
作り興ありのるり又法〳〵ときるべし當時為
ものやうなるものも毎度よみ合ふ例のえの
よるべいまれていまだ〳〵きわるり作りなれども心
乃あるべきるりなるたるものを作るべくるか
らいとうるべるるるふるり五人百絵連句もたるた
ふるりあるて年をもやるるるたれん人は鄙
句をもよみるるを心りるけさはうきはは
去りの立るるるをつけるるる

用とい心もり俗今金烏八日天象ハ不嫌ハ不ハ嫌〳〵但二句嫌へきとい〳〵ハ不依句体

銀竹ハ雨　生拙ハ不嫌但竹の字ハ不句

金衣ハ鶯　是ハ衣ハ限れ一ハ古事ハ衣ハ衣ハ衣ハ二句嫌へ

為衣ハ蕙　為ハ一切ハ衣ハ衣ハ〳〵

霜蹄ハ馬　霜と馬ハ字ハ不一ハ為路ハ

鰥ハ鱞　句偏ハ和ハ過ハ〳〵

一鹿一句ハ

狂鬼〳〵類　連類之形式用ハ不及戒

洞庭玉章兎狐　ハ義ハ皆ハ一句ハ

二句ハ　ハを嫌へ

垂風　松風　ハ〳〵形式用ハ不及戒

紫　紫と柳　嫌ハ一ハ用〳〵紫ハ色別

坂岩　嶋　海　江　堤　浦

磯　沼

三句ハ　ハ嫌ハ

紅葉　文乃類　形式用乃ハ

宮 皇居ゝ一説紙ゝ一又皇居神祇乃略ゝ名ゝ二とあつとゝ名ゝ乃ゝゝ一説ゝ三ゝ

白匂梅 ゝ琴折

紅雪玉宮 いつくしき乃ゝ

五匂物 一説ゝ不及ゝ

世梅

春部

新正 歳乃首月ゝ

淑氣 ゝ乃ゝ

霞律 黄帝作律ゝ

貢栄 ゝ

絮 柳乃ゝ

暖芳 ゝ乃心あり

紅梅 ゝ

踏青 ゝ草を

芳草 ゝ草ゝ

焼痕 狩の焼原ゝ

鶯 ゝ

山梁 ゝの影ゝ

蜂 ゝ依白拍子

夏部

新緑 新樹ゝ

清和 ゝ月ゝ

霖 ゝ雨乃ゝ

黄梅 梅乃ゝ

黄雨 黄梅時節の雨乃ゝ

白雨 ゝの影

麦秋 秋のはじめ麦をいふ

薫風 ひつてきのうかぶなり

雲峯 夏雲のなり

炎部

初源 秋源日るや

殘暑 初秋く初や

金氣 秋八金の字なり

爽 秋のさやるなり

懸鶉 衣のもや

弁扇 あつさをくるなり

筋枝 秋や

黄柳 枝の柳なり

孟嘉帽 九月九日よりなるなり

冬部

凍柳 冬枯柳や

凍蝶 冬なり

柘 草文乃心やな 柘よりの縁二句

探梅 弱早梅心なり

雲信 雲信来るといふなり

冬歳

爆竹 爆竹鶯鬼なるといふなり

儺太 初なるる声なるといふなり

山類

雪山 天竺大雪山八仏偏山新なり

岫 山新なり

炭竈 山新や炭とふなり山新よあれ

水邊

湖境 大湖のほとり

一絲 糸のごとき

湾 水曲

釣 釣をする

業海 海の邊

視地 見る地形

釋教

禪 冬禪

定 入定

杖 杖

杖師 杖の名

杖僧

懷

名利 名を思ひ利を重んずる

蕊 蕊の字

浮杖

裏部 白頭

老 釣人

隱

地 地

陸業

憲部

綿 宮綿

寺 寺

和 和歌

園怨 御園怨

曉粧 黛

義人 別字 但是ハ勿論

鴛鴦 鴛鴦

衾 古衾

古花

粧鏡 四十余年ノ粧鏡ハ

昭陽人　楊貴妃
（ようこう）　（ようきひ）
（りうこうの部）

張部

信　寄信の内容　寄　（ほう）貴妃の字　（張りあるなり）

遠い　遠い夢　一葉力　漂泊

（ゑの心）　（ゑり）　征人　友山　泊字　（可信の字）

人倫

乙　候　伯子　男　（以上是ハ男の補候なり）

士　汝　（以上人倫なり人の名人倫なり）

帝王　孤卿名　松翁　弁友

姓　（以上人倫よりあるなり）

与体

顔　髮　（乃ち数人倫よりなり）

生殖

梅暦　梅暑　葉毋　青酒

菫屯酒　桃紅酒　桃紅酒　（生殖）

鶴林　拾柘　伐丈　藤杖

桃花馬　桃萬　桃花　桃花粥

蓼蕗　嚼仙　茉　合蘭　燒香

ひとせ須ゆあれ

桃李分類

被　暗香　春如夢　胡蝶夢

付句可嫌物

玉章　羽　偽真　別

ふの数如と弟　与と業　此と於

是と斯　可と意　青　孫　養ホ

白ハ素　紫

嫌打鉦物　分　八連鈴ハあり

難支ハ支字　顔　見字　めけ之数

二句可隣物

月と日と星　めけ天象ハ月と日と星ハ　みな二句ハ嫌物

朝と夕　暮と朝　めけ昼ハ朝と夕ハ

雨と霧　霜と雪　馬と獸
虫と馬　草と草
竹と笹　人倫と人倫
遠と近

三句の陽相

山類と山類　山と岳
山と山　道と道
歌と歌　草と草

獸と獸　衣類と衣類
同時と同時　国名と国名
名所と名所

五句の陽相

同字　非紙　繩教　懷　怨
藤　月　松　船

七句の陽相

同季

句數之事

春 煩連句の如き 夏冬 四季 恋 四季 神祇 釋教 懐紙 山類 水邊 居所 生類 隙類 人倫 衣類 人名 名所 人名 句体之類二句續や 国名

十句之内禁制之物 必連歌

不祥字 人名 あり

一度より一句乃句ハ和漢ともに出申たるもの
二句の句ハ一完たるもの
和二本完たるもの 自家乃景物もあり
和漢小ハ漢乃方ゟ韻字 韻字あり
和漢ともに韻字あり
百韻ゟ漢ゟ千句和五十句たるもの 但古懐
紙ゟ多少ゟ
聯句ゟハ体用乃ゟ
体用ゟ云ひたるもの
有
和漢ゟハ挙句ゟ為漢漢和ハ和句たるもの 非
紙居所ゟ
悪敷
右ゟ為ゟ
度者や

句体用ゟ云ひたるもの 五十年 集句
句体用ゟ云ひたるもの
句体用ゟ云ひたるもの
句体用ゟ云ひたるもの

以上下卷去天正七年から二
ヶ年あまりより異ことを記し同十三年
孟冬はじめ乃至乃至乃至乃至乃至乃至
乃拔見よ入ヶ
て乘三校合ことけ煩重を言
用捨乃詞とくふ志あれと
風雅ハ其食草衣乃志よりし
部よりしく十有余年蟲奥の

きこえを以其後巴老は書を壹
蒙ふさいく面こうゝ度くあひ
りの後ふかゝり二ヶ月函底
といふ其中書を又源は討被
院あり事数也于時傍人竊ふ
是を写し見流布をとゝ
孫りもくは文禄未丈乃蒲帝を
厚り慶長改元乃秋書式

用小ハ志りし年正月を漸ふ
清書二三子ふあくいく
ゆめ〳〵他見をなすまじく稽門
ふ入くハ其理智とまれ儒道
に赴てハ先德行をあくまで
を先小忠をいふ親師ふ
孝を行ふ勢たいふ宰予
り晝寢祝鮀乃ふ知り韓侯乃ふ知り時

日をうけんとあさ海に出て
乃咲あるを見て樽乃葉を折て是
髪の足元に飾ハ是ハ少て所
しの続乃雪小おもくく所を
造ハ是顕海ハ妄念をそ
ぬるを安心和尚ハ
引寺ハ天正元仲冬上の五日
小世を出て山へ入棲巣汲乃

功一十三年寺社御造八十一
宇高野往山の星霜世五天
齢を小六千二の業愉よ
恭くれんとよ高祖入定の
暦数よあらうう紀世乃塵一巻
りに一息の絶ん夕を待
乃こゝ生滅盛衰乃をう楽
極悲生のひ一睡よいを所

らんは一冊世間年ゆおよ神
塔や梅乃ちる枝よ白いて〳〵光
ひ〳〵ゆ名ことを形ら やとい霊夢よ
ようこめて筆をそ心今又清
書轉軸乃あつき箱小さへ下
葉ハ家のめくみられといる夢想
あり夢よりおこり夢よおいる何
ますも宿稽乃あやうれとひり

ねさう世乃ちけきさりつ心まく
と戒盡ちん時いりあさ一日
乃ひ乃こさ一念のさひより
ひとよ勸善拵悪のほとめおて
たるへ法陽東山大佛殿奥
院樹下ホく慶長二年正月廿八
日書〳〵世間のほるれとをを
いとひそれ有為乃あり是よを

[illegible]

[illegible]言物より拾ひ

[illegible]の羅より採り

[illegible]の字諸法[illegible]

南山允食門

此金言物を乃ち小未代の重宝

[illegible]真山上人はあらせ給ひ和

[illegible]浦より心ざしを大師海ねを

[illegible]御當家より心をあらせ金堂大

[illegible]塔を[illegible]造り[illegible]

[illegible]比能[illegible]大佛供養の後[illegible]

山[illegible]寺より[illegible]とり[illegible]の

道を[illegible]

聖武天皇乃御時者[illegible]
行基菩薩を[illegible]
玉河乃[illegible]あり山と人乃[illegible]
歌乃概筆遺者[illegible]
さ[illegible]合と記し[illegible]
御[illegible]ことやけ[illegible]民乃[illegible]
草木乃實を[illegible]断[illegible]
[illegible]

むら御志乃ありさま小縁を心
をいんといよ〳〵ゆ[illegible]
しらて言乃おくよ利多書
物乃や
慶長三年二月廿四日　法眼

此無言抄之作意者兩奥書
疾之不意被 叡覽御感不
斜有写留之仁 勅定深重
者也

慶長三年

二条親王空性

此云言抄〻外題共被深
勅筆 乗大覺寺殿 二条親王御
奥書也一覽〻〻上人依不
沙汰之〻〻
慶長四年卯月上旬

法眼宗也 京判

此一部

勅授より走筆を仰付まくかうと

志ゝ

天子へ奉進献申とうつとめ侍更

白市授官仰りむ万證正本か

飯道寺梅本坊先達行者伝一巻

又此奥書をくへしと仰付て

よ奥へ申ていれ乃はちやを取

乃曉夢よりさめうつつとも

それともなくて若狭ゝ万ゝよ

乃きゝ

いそへいつゝ

言葉乃名ゝ

慶長八年正月十日

木食奥山上人慈其 御判

言抄巻之下

元和九年　五月中旬

源大郎同坂

アナキ